

茨木市地域包括支援センター

令和元年度事業報告・令和2年度事業計画

(平成31年4月～令和2年3月分)

茨木市

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	清溪・忍頂寺・山手台
運営主体	社会福祉法人 恭生会
センター名	清溪・忍頂寺・山手台地域包括支援センター

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・福祉機関に加え、地域と深い繋がりがある寺や商店、駐在所への挨拶まわりを実施し（半期に1～2回）情報収集と周知に努めた。</li> <li>・毎朝のミーティングを行い、ケースの進捗状況・対応方法について共有し、全職員が共通認識のもと支援が行えている。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） フットワーク軽く地域に出向き、住民や関係機関との円滑な連携体制を構築できている。
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） 有志の会など小単位で活動している所の実態把握と周知活動。
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待や困難事例については、地域も含めて病院、保健所、警察等の関係機関との協力体制が出来ており、迅速な対応に繋がっている。</li> <li>・地域の消費者被害の実態把握に努め、必要な助言を行った。</li> <li>・成年後見制度の相談が3件あり、申立てのために司法書士に2件繋いだ。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） 司法書士とは地域ケア会議で意見やアドバイスをもらうなど、日頃より気軽に相談できる関係性が出来ている。
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） 地域住民向けに高齢者虐待に関する啓発活動に取り組む必要がある。
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリア内外の居宅（9か所）の訪問や個別相談に応じ、介護保険内外のサービスの情報提供やケース課題を共有できた。それにより事業所の強みを知ることにより利用者との調整に活用できた。</li> <li>・交流会を通じて、地域住民と関係機関が意見交換や情報共有できたことで、協力体制が強化された。</li> <li>・施設見学については、今年度は実施できなかった。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） 居宅と包括間で気軽に相談できる関係性が出来ている。
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） 介護支援専門員の経験や力量に応じた後方支援が必要。
	<b>【地域ケア会議】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2包括合同で2回（1回は自立支援型）、エリア内で2回実施。エリア内では小学校区ごとに開催し、駐在所や消防署の参加を促すことで、課題解決を目指した意見交換の場となった。</li> <li>・自立支援型では、実践に繋がる具体的な助言をもらうことで、新たな視点でのプランの見直しが出来た。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） 地域の関係機関（警察・消防・病院・民生）が、我が事として考え、発言しやすい会議の開催が出来ている。
<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） 包括が自立支援型の手法に経験を重ね、慣れていく必要がある。		
介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動（サロン・老人会等）に出向いた際は、はつらつパスポートの元気編を活用し（年間80冊以上配布）介護予防や健康増進のためのセルフケア推進に努めた。（年間33回）</li> <li>・自立支援型ケアマネジメントを意識して、地域の社会資源をプランの中に位置づけている。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） 短期集中型サービスCを積極的に活用し、早期自立を促すことができた。
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） 栄養・口腔機能の向上を目指した取り組みが必要。
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率50%以上、エリアが広く集落が離れている、医療機関が少ない、車以外の移動手段が限られている等の課題がある中でも、住み慣れた地域で生活し続けるため、介護予防教室、買い物支援を検討した。また、参加手段としての移動方法も各関係機関と協議した。</li> <li>・認知症について知りたいといった地域住民からの相談を受けたり、ケアマネジャーからの相談で認知症高齢者見守り事業の手続きを支援したり、認知症に対する取り組みをした。</li> <li>・集いの場が少ないという課題に対して、フレイルの予防を目的に、地域住民と協力して居場所づくり、健康増進、情報発信を展開している。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	清溪・忍頂寺・山手台
運営主体	社会福祉法人 恭生会
センター名	清溪・忍頂寺・山手台地域包括支援センター

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンストップサービス、緊急時の迅速な対応の強化。</li> <li>老人会など小単位で活動している所への周知活動、関係づくり。</li> <li>圏域周辺の社会資源の実態把握。</li> <li>支援の必要な高齢者の調査・把握。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エリア内にある公共機関、商業施設や寺などへの訪問。(年1回以上)</li> <li>社会資源リストを作成する。</li> <li>独居高齢者を中心にチラシをポスティング。</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待について、地域住民への予防啓発活動や関係機関との協働体制を作る。</li> <li>支援困難事例について、関係機関との協働に努める。</li> <li>消費者被害拡大防止のため、地域住民や関係機関への迅速な情報伝達を行う。また、警察や消費生活センターと協力関係をつくる。</li> <li>成年後見制度の活用促進のために、包括職員のスキルアップに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者虐待に関する勉強会を住民向けと専門職向けに2回開催する。</li> <li>警察や消費生活センターと協力して消費者被害に関する最新情報を地域のサロンや会議等で周知する。</li> <li>成年後見制度に関する研修会に参加し、包括内で情報共有する。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会や意見交換会などを通じて、ケアマネジャーなどの専門機関と地域住民との関係性を深め、地域の強みを生かしたネットワークの強化に努める。</li> <li>どのようにサポートしたかのデータを集めて今後の後方支援やケアマネジャーのスキルアップに役立てる。</li> <li>地域にあるフォーマル・インフォーマルの社会資源の周知、活用の促進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会(2回)、交流会(1回)を実施する。</li> <li>北圏域合同で、地域にある社会資源の見学会の実施。(1回)</li> <li>エリア内外の居宅訪問(年1回以上)</li> </ul>
	<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援型は、多職種からの専門的な助言を得ることで、ケアマネジャーの介護予防ケアマネジメント力の向上を目指す。</li> <li>複合型は、医療、福祉、地域の関係機関へ参加を依頼し、個人課題を多様な視点から検討することで、地域課題の把握、解決を目指す。</li> <li>モニタリングを実施し、報告の場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援型 年4回実施。</li> <li>複合型 年2回実施。</li> <li>モニタリングを実施し、具体的に課題解決のための取り組みを報告。</li> </ul>
介護予防事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援型のケアプランに地域資源を位置付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の社会資源を把握し活用する。</li> <li>手帳活用のため、意見交換会実施。</li> <li>月1回以上、地域活動に出向き、体力測定・チェックリストの実施や栄養士・歯科衛生士と協働してセルフケアの促進を図る。</li> <li>運動と買い物支援をモデル的に年1、2回開催。</li> </ul>
業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活動(サロン・老人会等)では、介護予防手帳などのセルフケアツールを用いて、栄養や口腔機能向上への取り組みを実施。</li> <li>山間部住民を対象に介護予防教室を開催。</li> </ul>	
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、地域住民、社協や生活支援コーディネーター等と協働で山間部住民を対象に運動と買い物の支援を組み合わせた介護予防事業を開始する。</li> <li>地域住民(子育て世代も含む)を対象に、認知症地域支援推進員などの関係機関と協力し、サポーター養成講座や声掛け等の実践的な研修を実施する。</li> <li>高齢者虐待の相談や通報が少なく、顕在化していないケースが考えられる。地域の事業所の家族会などに参加し、介護者や地域住民に対して高齢者虐待についての研修や啓発活動を実施していく。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	安威・福井・耳原
運営主体	社会福祉法人 恭生会
センター名	茨木市地域包括支援センター天兆園

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼時に相談内容の把握やケースの進捗状況を確認することで、職員全員で情報共有でき、スキルアップにもつながった。</li> <li>・相談件数については担当小学校区の変更があったため前年度との比較ができないが、住民等からの相談は関係者からの相談のおよそ倍である。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>職員全員で情報共有することで、チームアプローチを行えた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>社会資源について、一定の整理はできたりリストの作成には至らなかった。まだ、経験値に基づく部分がある。</p>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成年後見制度活用のため、地域ケア会議の中で、司法書士を講師に招き、勉強会と事例検討の実施。</li> <li>・サロン等地域住民への制度の周知（3カ所）</li> <li>・制度利用の相談に対応し、弁護士等紹介を行った。</li> <li>・高齢者虐待の防止のため、相談に対し、関係機関と連携し対応を行った。セフネット会議等で民生委員等に啓発を行った。</li> <li>・消費者被害防止のため、警察官から住民への注意喚起や消費者センターとの連携を行った。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>地域ケア会議や複合ケースを通し、司法書士や障害相談支援センターやCSWとの連携がとれている。地域住民への成年後見制度の啓発を意識して行うことができた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>専門職からの相談はあるが、件数としては少ない。専門職・市民への啓発を継続的に行う必要がある。</p>
包括的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー勉強会を実施できた。（2回）</li> <li>・圏域内のケアプランセンターを訪問した。</li> <li>・ケアマネジャーとの関りを通じて、支援困難事例の相談もあった。また、総合事業のサービスについて具体的に紹介し、利用促進につなげた。</li> <li>・医療機関や郵便局への訪問を行った。</li> </ul> <p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議は5回実施。その内2圏域合同会議を2回実施。内訳は複合型ケース（4件）と自立支援型（1件）、モニタリング（2件）。</li> <li>関係機関、ケアマネジャーとの情報共有や意見交換の場として更なる関係構築を図る事が出来た。ホワイトボードミーティングの技術を活用し、意見をボードに落とし込むことで、整理しやすく、発言しやすい状態で参加者全員からの意見が引き出せた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>介護保険サービスにおける関係機関との連携はできており、気軽に相談し合える関係が構築できている。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>要介護の支援困難ケースについての相談が少ないと感じている。</p>
ケア予防マネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン・老人クラブ等で、健康講座を行ったり、いばらき体操や高齢者向けに考えられた体操等を23回行った。出向くことで相談しやすい関係を築くことができた。</li> <li>・介護保険非該当の対象者には、いきいき交流広場やコミデイ等に紹介できた。</li> <li>・はつらつパスポートについては、年50冊以上配布できた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>コミデイ、集中Cなどを取り入れた、自立支援を意識したプラン作成を心がけた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>はつらつパスポート連携編の活用は難しく配布数が少なかった。改めて現状把握し、活用方法を考える必要がある。</p>
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関の少なさは前年に引き続き課題である。また、総合病院の経営移譲による影響は今も大きく、受診先が定まらない高齢者等からの相談が増えた。そのため状態に応じた適切な医療機関を紹介した。</li> <li>・8050問題についてはCSWや障害相談支援事業所と一体的な支援に取り組んだ。</li> <li>・いわゆるゴミ屋敷となっている高齢者や複合課題のある世帯からの相談が例年より多かった。生活面はもちろん、生命の危機に直結するような状態については見逃すことができないため、やむを得ずセンターが直接対応することも多かった。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	安威・福井・耳原
運営主体	社会福祉法人 恭生会
センター名	茨木市地域包括支援センター天兆園

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<p>①総合相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップで対応できるよう、3職種が連携する。</li> </ul> <p>②地域の関係機関とのネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の会議には、担当者を決めて出席し、関係性を深める。</li> </ul> <p>③センターの周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターをより身近に感じてもらえるよう啓発を兼ねた情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝礼時に、全員で相談内容を把握する。</li> <li>・ケースの進捗状況についても確認する。</li> <li>・セーフティネット会議や地域の行事に参加して、相談しやすい関係性を深める。</li> <li>・『包括便り』（仮称）を発行し、啓発と情報発信を行う。（年2回以上）</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口として、高齢者虐待の早期発見や虐待の防止につなげる。</li> <li>・成年後見制度の利用が必要と思われる人に、必要に応じて制度の説明や専門機関へつなぐ。</li> <li>・消費者被害の防止のため、警察や消費生活センター、関係機関と連携強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・権利擁護（高齢者虐待）をテーマにした勉強会を実施する（年1回）</li> <li>・司法書士等の専門家を今後も地域ケア会議へ招聘し、連携しやすい関係性を深める。</li> <li>・サロン等で地域住民に向けて、権利擁護に関する啓発や周知活動、タイムリーな話題の提供を行う。（年3回以上）</li> </ul>
包括的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーの実践力向上を目指す。</li> <li>・要介護の支援困難ケースについても、相談窓口であることを積極的に周知する。</li> <li>・連携が円滑に行えるよう、圏域内のケアプランセンターを訪問し相談しやすい体制を構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャー勉強会の実施（年2回）その内1回は北圏域合同の社会資源見学会を実施する。</li> <li>・圏域内のケアプランセンター訪問（年1回以上）</li> </ul>
	<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型では専門職によるアドバイスから、アセスメントの視点を養い自立支援に資するケアプランにつなげる。</li> <li>・複合型では、ケアマネジャー等の抱える課題を多種職で検討することで、問題解決に努める。</li> <li>・モニタリングを行うことで、経過把握だけで終わらないようにケアマネジャーへの後方支援を行う。</li> <li>・事例の積み重ねから、地域課題を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型と複合型を併せて合計6回以上の地域ケア会議を開催する。</li> <li>・モニタリングについては2ケース以上行う。</li> <li>・把握した地域課題を、行政と共有する。</li> <li>・職員全員が会議の司会を経験してスキルを高める。</li> </ul>
介護予防業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつらつパスポート（元気編・連携編）の活用推進。</li> <li>・民生委員や地域住民からの提供された情報をもとに、事業対象者の早期発見に努め、相談支援を行う。</li> <li>・山間部の住民を対象に買い物とはつらつ教室を組み合わせ、介護予防を目的とした取り組みを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はつらつパスポートの配布継続。（50冊以上配布）</li> <li>・サロン等の地域活動に参加する。（月1回以上）</li> <li>・地区福祉委員会、生活支援コーディネーター社協等の関係機関と連携し、モデル的に年1～2回実施する。</li> </ul>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関が少ないという課題は今後も継続すると思われる。住民が困っている点について行政に情報提供し続ける。また、他市も含めて医療機関の情報収集を行い、相談に備える。</li> <li>・多世代に渡る多様な相談に応じられるよう、CSWや障害相談支援事業所との連携を継続する。</li> <li>・認知症を正しく理解し、地域で支える仕組み作りのため、認知症かふえの支援や、オレンジダイヤル等の啓発活動を行う。</li> <li>・「天兆園に相談すれば何とかなる」と思ってもらえるよう、周知活動を行い、どんな相談にも対応できる体制を整える。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	豊川・郡山・彩都西
運営主体	社会福祉法人 慶徳会
センター名	茨木市地域包括支援センター 常清の里

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	①総合相談:3職種で対応。月1回はスーパーバイザーとして施設長を交えてケース会議実施。振り返りも行っている。②地域包括支援ネットワーク構築:個人情報研修会等を関係機関向けに開催出来た。安否確認を行い早期発見に努めた。情報が入ってきやすいように、顔の見える関係作りを行っている。③実態把握:地域住民や関係機関や地域の相談窓口と連携し、相談が入ればすぐ、家庭訪問・ケース会議を実施している。	【強み】(特に評価の高い点) 情報共有・モニタリング・啓発・関係機関との連携は行えた。地域に向けた研修会も行えた。
		【弱み】(改善が求められる点) 利用者を通じて自治会と連携は図れたが、全自治会と連携するのは難しい。
権利擁護業務	①高齢者虐待防止・対応:地域が見守り活動に力を入れているおかげで、相談が多く比較的早期に介入出来たので終結できたケースも多かった。ケアマネ向けの研修会も実施し相談も増えた。②成年後見制度の活用促進:口頭での啓発は行えたので、次年度は研修会の実施を検討。③消費者被害の防止:サロン・老人会等集まる場所では必ず啓発を行った。関係機関へも注意を促した。消費者センターへ連絡する案件はなかった。	【強み】(特に評価の高い点) 包括内での情報共有や関係機関との連携はスピーディーに行えた。専門職間の研修も行えた。サロンで詐欺防止の啓発も毎回行った。
		【弱み】(改善が求められる点) 地域で見守り活動は出来ているので、地域と関係機関が円滑に連携が図れるよう引き続き支援する。
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	①包括的・継続的ケアマネジメントの環境整備:個別ケースを通じ医療機関と連携が図れた。昨年度の看取りケースがきっかけとなりACPの研修会も実施出来た。地域ケア会議での地域課題を抽出する事が出来た。地域の商業施設などにポスターを持って行って啓発が行えた。②ケアマネジャーへのサポート:情報があれば、資料提供等に努めた。提出書類に関する研修会も行った。医療との連携の際、助言や同行する等して支援を行った。	【強み】(特に評価の高い点) 専門職と地域向けの研修会や地域へポスターを配布し啓発が行えた。
		【弱み】(改善が求められる点) 関係作りは既に出てきているが、担当が変わる事もあるので、繰り返し顔の見える場を企画していく。
		【地域ケア会議】 ・アセスメントと予後予測について学べた。 ・事例検討を通じ、課題の蓄積を行う事が出来た。 ・自立支援の視点で事例検討を行い、モニタリングを実施する事が出来た。 ・管理栄養士やリハ職等との連携が図れた。 ・課題から社会資源の見直しが出来た。 ・早期発見の視点から介護予防の重要性も学べた。
介護予防業務	・介護予防や特定健診の啓発を行った。 ・介護予防手帳・地域連携手帳の啓発に努めたが、その後の活用や効果を追う事までは出来なかった。 ・啓発の成果か認知症サポーター養成講座の依頼が入るようになったが、台風等で企画が中止になる事が多かった。	【強み】(特に評価の高い点) 介護予防の啓発・普及に努めた。研修会も開催した。サロンで自宅でも行える脳トレ体操を行った。
		【弱み】(改善が求められる点) その後の追跡が出来ていない。サービス利用だけではなく、自助・互助の力を引き出す。
地域課題に対する取り組み	①季節に応じた健康講話を行い介護予防普及に努めた。 ②歩いて行ける場所に買い物をするところがないという課題に対し、福祉委員会(自治会)・社協・CSW・生活支援コーディネーター等と協力し、移動スーパーを導入する事が出来た。 ③地域の関係機関と合同で世代間交流の行事や研修イベントを企画し実施出来た。 世帯で抱える課題について連携して支援を行えた。(8050問題等) ④非常食体験を開催したり地域の防災訓練に参加した。	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	豊川・郡山・彩都西
運営主体	社会福祉法人 慶徳会
センター名	茨木市地域包括支援センター 常清の里

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<p>①総合相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3職種で連携しワンストップで相談にあたる。</li> </ul> <p>②地域包括支援ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関係機関と会議等を通じ連携を図る。</li> <li>・地域に啓発を行う。</li> </ul> <p>③実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早期発見出来るように関係機関と連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回は情報共有とモニタリングを行う。</li> <li>・地域の商業施設や老人会、自治会等にポスターを持参したり啓発を行う。</li> <li>・定期的にCSWや社協や事業所等と連携し、行事に参加したり研修等を企画する。世代を超えた顔の見える関係作りを強化する。</li> </ul>
権利擁護業務	<p>①高齢者虐待の防止・対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民、関係機関と連携し、虐待防止や早期発見や再発予防に努める。</li> </ul> <p>②成年後見制度の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民やケアマネに啓発し、制度への理解を促す。</li> </ul> <p>③消費者被害防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン等を通じ啓発する。</li> <li>・ケアマネや警察、消費者センターと連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括内でオンタイムでの情報共有を行う。</li> <li>・成年後見制度活用の為に研修会を企画する。</li> <li>・地域住民や関係機関と情報交換や情報共有を行う。</li> <li>・サロンで消費者被害防止の啓発を安まちメール等を活用し行う。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<p>①包括的・継続的ケアマネジメントの環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療や介護等の機関が少ないので、圏域を超えて連携を図っていく。</li> <li>・他職種連携のため顔の見える関係づくりを行う。</li> </ul> <p>②ケアマネジャーへのサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有や困難ケースの支援を行う。</li> <li>・地域の行事の紹介や民生委員等地域住民との連携を促進する。</li> </ul> <p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメント力を高める。予後予測をする。</li> <li>・自立支援の視点から目標設定やモニタリングを行う。</li> <li>・関係機関との連携を図る。</li> <li>・地域課題や社会資源の発見や提言が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職同士の交流の場を企画する。</li> <li>・北圏域合同では1回交流会を実施する。コミデイ等の見学会を実施し、介護予防を学ぶ。</li> <li>・問題解決力向上のため専門職と地域住民と顔の見える関係を推進する。</li> <li>・相談が増えてきたアルコール依存症に関する研修会を企画する。</li> <li>・年6回実施</li> <li>・自立支援型4回（モニタリングを含む。）と複合型課題2回実施。</li> <li>・地域の特性を分析し、生活支援コーディネーター等に繋ぐ。</li> <li>・多職種との連携。</li> </ul>
介護予防業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防や特定健診等の普及に努める。</li> <li>・介護予防手帳や地域連携手帳の活用を促す。</li> <li>・認知症地域支援推進員と連携し、認知症の啓発やケースの検討を行う。</li> <li>・生活支援コーディネーターと連携し、地域の課題の解決や、歩いて行ける範囲の居場所等の社会資源の発掘に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関との連携を図り、介護予防に努める。</li> <li>・サロン等で転倒予防と脳トレを行う。</li> <li>・認知症の勉強会や啓発を行う。</li> <li>・豊川小学校区で社会資源マップを作成する。</li> <li>・手帳の配布や活用状況を確認する。</li> <li>・青い鳥は年1回イベント開催する。</li> </ul>
取組方針	<p>①地域の見守り体制が継続され、早期発見・早期対応に努める。</p> <p>②地域と関係機関がスムーズに連携が図れるよう顔の見える関係づくりを推進する。</p> <p>③医療機関や商業施設等が少なく、公共機関まで距離があり、なおかつ坂が多い地域である。閉じこもりにならず、住み慣れた地域に住み続けられるよう、介護予防の啓発に努める。</p> <p>④専門職の不足があるので、自助・互助が促進されるよう、地域住民や市や関係機関と連携を図る。</p> <p>⑤万引きの相談も上がってくるので、地域の状況を調べる。</p>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	太田・西河原、三島・庄栄
運営主体	社会福祉法人 秀幸福社会
センター名	茨木市地域包括支援センターエルダー

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<p>・新規相談件数は、591件（延べ2266件）。平成31年4月より、担当小学校区が2か所減ったこともあり、214件減少。小学校区別の相談割合は、三島が174件（30%）、庄栄が105件（18%）、太田が149件（25%）、西河原が79件（13%）、その他が84件（14%）。新規相談件数について、それぞれの小学校区の高齢者人口に対する割合は、三島は3.6%、それ以外の小学校区は、2.6～3.1%にとどまった。包括開設以来、介護相談・介護者支援相談が一番多い。包括開設以来、介護相談・介護者支援相談が一番多い。</p>	<p>【強み】（特に評価の高い点） 12ヶ所の福祉相談会、サロン等に参加。（延べ73回、血圧測定や個別相談759件）相談しやすい関係が構築出来ている。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点） 小学校区によって相談件数にばらつきがあり、地域包括の啓発が十分でない。</p>
権利擁護業務	<p>高齢者虐待は前年度より、4件増の10件。前年度継続が1件。11件中10件の被虐待者に認知症があり、中度の方も多く、介護負担が虐待の一つの大きな要因となっている。成年後見制度の対応は、相談は2件と少ない状況であったが、相談後に権利擁護の必要性が高くなり、司法書士等の関係機関にスムーズにつながることができた。消費者被害の対応は、相談が0件であったが、警察や消費生活センターと連携し、特殊被害の防止に努めた。</p>	<p>【強み】（特に評価の高い点） 地域関係機関（MSW、CSW、障害相談支援、司法書士等）と連携ができており、迅速な対応ができています。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点） 市民に対して、権利擁護の相談窓口であることが周知できていない。</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<p>平成31年4月より、担当小学校区が2か所減ったこともあり、関係機関との関係づくりは、前年度から111回減少して263回。 年間2回の東圏域のケアマネジャーとの研修会、自立支援地域ケア会議（6回）の傍聴等で連携強化をおこなえた。郵便局、コンビニ、調剤薬局等に訪問し、顔の見える関係の構築に努め、郵便局からの相談が増加。</p> <p>【地域ケア会議】 自立支援型地域ケア会議を6回開催。個別事例を6事例検討。他職種の方に参加していただき、個別課題に対し専門職の意見をいただくことで、事例提供者、参加者の多くの気づきを生んだ。 ただ、事例提供者が地域包括職員のみとなり、検討して欲しい課題の共有はできたものの、アセスメントの不足を感じるが多かった。</p>	<p>【強み】（特に評価の高い点） 関係機関や地域との連携、協力体制が、強化でき、気軽に相談ができる関係が構築できている。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点） ケアマネジャーの経験に応じた後方支援ができず、地域包括主導になり、スキルアップにつながらなかった。</p>
		<p>【強み】（特に評価の高い点） 全職員が会議に参加。それぞれが、司会の役割を担うことで、自立支援の共通認識ができ、多角的な検討ができた。</p>
<p>【弱み】（改善が求められる点） 個別事例の検討数が少なく、地域課題の抽出までいならず、モニタリングの手法も十分ではなかった。</p>		
ケア予防業務	<p>1月末現在30名（内委託17名）の方の介護予防ケアマネジメントをおこなっている。 コメディを利用されている方は12名（前年度より2名減）。訪問Aを利用利用されている方は24名（前年度より16名増）。 はつらつパスポート（元気編）の配布は定着。サロン等に毎回持って来てくれる方も増加している。連携編については活用できていない。</p>	<p>【強み】（特に評価の高い点） 自立支援の視点を持ち、ケアマネジャー等に啓発することで、訪問A等を取り入れケアプランを増やすことができた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点） はつらつパスポートは関係機関との連携ツールであるが、現状活用できていない原因を整理し活用方法を検討する必要あり。</p>
地域課題に対する取り組み	<p>・認知症高齢者の増加において、認知症の啓発のため大学や企業等への認知症サポーター養成講座を積極的におこなった。 ・単科の精神科が2箇所あるため、近隣に精神疾患がある方が転居して来たりすることもあり、本人や家族に精神疾患がある人が多い。複合的課題が発生することもあり、障害相談支援、PSW、CSW等とのカンファレンスを開催し、情報の共有と役割分担をおこない適切な支援に努めた。 ・大阪北部地震後も金銭的問題等があり、修理せずに生活する家族等がいない高齢者に対し、ボランティアの紹介やADLに応じて施設や転居の助言、支援をおこなった。</p>	



令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	太田・西河原、三島・庄栄
運営主体	社会福祉法人 秀幸福社会
センター名	茨木市地域包括支援センターエルダー

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<p>1. 担当小学校区に、より地域包括支援センターを知ってもらえるよう、コンビニや郵便局、薬局への訪問の継続、歯科やクリーニング店等へ訪問し、地域包括支援センターの周知・啓発をおこなう。特に相談の少ない西河原小学校区の相談を増やす。</p> <p>2. 新人職員（入職1年目）の育成、全職員のスキルアップに努め、相談機能の強化を図る。</p>	<p>1. 高齢者人口でみて、それぞれの小学校区の新規相談を増やす。</p> <p>2. 入職3年目の職員がチューターとなり、新人職員を指導することで、質問しやすい環境をつくる。全職員が毎月1回、内部・外部研修に参加する。</p>
権利擁護業務	<p>1. 【虐待防止・対応】民生委員、ケアマネジャーへの啓発は少しづつできているが、市民からの相談が0件であったことから周知・啓発をおこなう。</p> <p>2. 【成年後見制度の啓発・活用】全職員が成年後見制度を理解・活用できる。</p> <p>3. 【消費者被害の防止】警察、消費者センターとの連携を強化する。</p>	<p>1. 高齢者虐待の周知・啓発を地域のサロンや相談会等（12か所）でそれぞれ年1回おこなう。</p> <p>2. 司法書士の方を講師に招き、東圏域の包括職員で勉強会をおこなう。</p> <p>3. 消費者センターに年2回は訪問、情報収集をおこない、地域、ケアマネにタイムリーな情報提供をおこなう。</p>
ケアマネジメン ト 支 援 業 務	<p>1. 【包括的・継続的ケアマネジメントの環境整備】多職種連携を強化し、複合課題に対応できるよう、地域包括支援ネットワークの構築を目指す。</p> <p>2. 【介護支援専門員へのサポート】介護支援専門員同士のネットワークの構築の支援をおこなう。</p>	<p>1. 地域ケア会議を活用するとともに、各小学校区において、個別ケースの検討会をおこなう。</p> <p>2. 東圏域の介護支援専門員のニーズの把握をおこない、ニーズに沿った研修会等を年2回おこなう。</p>
	<p>【地域ケア会議】</p> <p>1. 茨木市地域ケア会議実施要項、地域ケア会議ガイドラインに基づき、自立支援の視点を持ちながら、個別事例の検討会をおこなう。その際には、課題の抽出、評価、整理に努める。</p>	<p>1. 会議参加者と、自立支援型地域ケア会議の目的を再度共有した上で、年6回以上（12ケース以上）の個別ケースの検討をおこなう。</p>
介護予防 ケア マネ ジメン ト 業 務	<p>1. はつらつパスポート（連携編）の活用促進のため、対象者を絞り（独居、高齢者夫婦）、介護支援専門と連携して啓発をおこなう。</p> <p>2. 地域の社会資源、独自サービスを意識しながら、本人の自立を促すケアプランを作成する。</p>	<p>1. はつらつパスポート（連携編）の配布継続（年間30冊以上）。</p> <p>2. 資源マップの更新、修正のため、介護支援専門員の協力を依頼。委託ケースのサービス担当者会議には年に1回は必ず参加し、介護予防に資する取組を積極的に取り入れる。</p>
取 組 方 針	<p>・複合的課題にも迅速に対応できるよう相談対応力の向上を図るとともに、チームアプローチをおこない最大限の力を発揮する。</p> <p>・要支援者及び総合事業対象者等に対して、適切な支援をおこない、自立に向けたサービスや支援を提供し、重度化予防を図る。</p> <p>・認知症の方、家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、医療・介護等の関係機関が連携して支援をおこなえる体制を市と協力しておこなう。</p> <p>・個別課題の早期発見、早期介入ができるよう、アウトリーチを継続する。</p>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	東・白川
運営主体	社会福祉法人 秀幸福社会
センター名	東・白川 地域包括支援センター

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	①地域住民・圏域の医療機関・歯科・薬局・民生委員・スーパー・関係機関等へ新包括の周知を行った。 ②相談内容に応じ、迅速・丁寧な対応ができた。また関係機関と連携し信頼関係を深めることができた。 ③毎朝ミーティングにて情報共有・課題整理している。また研修にできる限り参加しスキルアップを図った。 ④民生委員と連携し、認知症の方へ早期に対応、支援につなげることができた。	【強み】（特に評価の高い点） 高齢化が進んでいる総持寺団地のはつらつ教室や相談会の新規開設に関わり、定期開催することができた。
		【弱み】（改善が求められる点） 地域のインフォーマルな社会資源（サークル活動等）の把握が不十分である。
権利擁護業務	①ケアマネや住民からも連絡・通報をいただき、高齢者虐待を早期発見することができた。 ②成年後見制度について、積極的な周知・啓発は出来なかったが、申し立て支援や助言はできた。 ③消費者被害については、警察や消費生活センターと連携し、随時、住民に情報提供を行った。	【強み】（特に評価の高い点） 高齢者虐待については地域のネットワークができており、早期発見に繋がっている。
		【弱み】（改善が求められる点） 成年後見制度について、地域住民への周知啓発が出来ていない。
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	①包括的・継続的ケアマネジメント…障害・CSW等多職種連携体制を強化することができた。 ②ケアマネジャーへのサポート…複合的な問題があるケースには同行訪問したり、後方支援を行った。 ③エリア内の居宅介護支援事業所のスキルアップ…地域ケア会議で委託ケースの事例も検討し、アセスメントの視点を再確認・気づきを得られた。傍聴のケアマネもスキルアップや意識付けができた。 【地域ケア会議】 ①自立支援型地域ケア会議を年6回実施し、専門職や傍聴のケアマネジャーも多数参加いただいた。 ②新たな関係機関として専門職が参加、特に毎回セラピストに参加・助言いただき、多角的な視点で事例を検討することができた。 ③個別事例から高齢化が進んでいる地域の課題を抽出。引き続き事例を積み重ね、課題整理していく。	【強み】（特に評価の高い点） 圏域のケアマネジャー研修を実施し、ケアマネジャーのスキルアップや意見交換ができた。
		【弱み】（改善が求められる点） 自立支援のケアプラン作成のために多角的な視点とインフォーマルサービスの位置付けが必要である。
		【強み】（特に評価の高い点） 自立支援型地域ケア会議を定期的に年6回実施、スムーズな会議運営ができた。
ケアマネジメント業務	①地域の社会資源の活用…多様な社会資源の把握が不十分で、ケアプラン位置付けは一部に留まった。 ②はつらつパスポートの配布継続…元気編は配布進むも、連携編は配布できなかった。 ③カフェ・サロン等との連携…新たに白川コープへアプローチし、認知症サポーター養成講座を実施した。 ④総持寺団地にてはつらつ運動教室新規開催に協力し主催者との連携体制ができた。	【強み】（特に評価の高い点） 介護予防教室のなかった総持寺団地にて、はつらつ教室とよりそい相談会を新規に開始することができた。
		【弱み】（改善が求められる点） はつらつパスポートの配布・活用できず。白川コープのサロンへの働きかけはできたが定期的な参加には至らなかった。
地域課題に取組み	・地域住民が相談しやすい窓口として、新包括を周知することができ、来所相談も増加傾向。 ・高齢化率50%の総持寺団地にて、CSW・社協と連携し、「よりそい相談会」を新規開始する事ができた。また、新規「はつらつ教室」の開催に関わり、連携協力体制を構築できた。 ・包括の周知・啓発活動や地域ケア会議を通じて、新たな連携先が増え、ネットワークの強化に繋がった。	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	東・白川
運営主体	社会福祉法人 秀幸福社会
センター名	東・白川 地域包括支援センター

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①包括の周知活動の継続</li> <li>②総合相談の強化・ワンストップ対応</li> <li>③支援ネットワークの構築・障害・CSW・子育て支援機関との連携強化</li> <li>④包括職員のスキルアップとチームアプローチ継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関・歯科・薬局・郵便局等への訪問を継続し、関係強化するとともにコンビニ、スーパー・新聞販売店への周知啓発を行う。</li> <li>・関係機関との連携を強化し、必要に応じて協働、多様な相談に迅速に対応。</li> <li>・職員の研修機会を確保するとともに、3職種でチームアプローチを継続。</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①成年後見制度の周知・啓発と研修会実施</li> <li>②地域住民や関係機関へ虐待防止の普及・啓発</li> <li>③消費者被害の防止・迅速な情報提供</li> <li>④消費生活センターとの連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン等で成年後見制度の周知・啓発</li> <li>・ケアマネジャーに対して成年後見制度の研修を実施・理解を深める。</li> <li>・ケアマネジャー・デイサービス等へ虐待防止の啓発を行い、早期発見に努める。</li> <li>・消費者被害に関する最新情報を住民に提供する。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①圏域ケアマネジャーとの研修会・交流会を実施</li> <li>②困難事例の検討会やサポート体制の強化を行いケアマネジャーのスキルアップを図る</li> <li>③隣接する医療機関と顔の見える関係づくりを行い医療と介護の連携協働体制を強化する</li> </ul> <p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①自立支援や重度化防止の視点を持ち、事例を検討する。</li> <li>②圏域のケアマネジャーから積極的に事例提供を受ける。</li> <li>③個別事例を積み重ね、地域課題を整理・検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーのニーズや意見等を吸い上げ、研修会を年2回実施する。</li> <li>・北摂総合病院・大阪医科大学三島南病院等の相談室との顔の見える関係づくりを継続。</li> <li>スムーズな在宅生活移行を支援する。</li> </ul> <p>・年6回 実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型は、1回2事例を検討する。</li> <li>・事例から見える地域の環境面の課題を整理・検討し、生活支援コーディネーターと協働する。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①インフォーマルな地域資源の把握のための情報収集を行う。</li> <li>②多様な地域資源をケアプランに積極的に活用する。</li> <li>③はつらつパスポート（連携編）の配布・活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動やサークル活動等の情報を収集、生活支援コーディネーターとも連携。</li> <li>・白川コープのサロンへ定期的に参加する。</li> <li>・はつらつパスポート（連携編）を配布し、活用状況をモニタリングする。</li> </ul>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の早期発見の取り組みとして、認知症サポーター養成講座等の啓発を行い、住民の認知症に対する理解を深め、地域力の向上を目指す。（総持寺団地）</li> <li>・エリア内の連携を強化し、支援が必要な方の早期発見・早期対応に努める。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	春日・郡・畑田
運営主体	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会
センター名	春日・郡・畑田地域包括支援センター

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談業務初任者の現場での育成が行えた。</li> <li>・外部研修には全員2回以上参加。</li> <li>・朝のミーティングで相談者の送りや意見交換を実施。</li> <li>・新包括の周知でサロン・セーフティ会議・ケアマネ事業所・医療機関・薬局・スーパー・喫茶店・新聞配達所などに訪問した。</li> <li>・相談対応後に相談者や関係機関にモニタリングし、把握に努めた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>セーフティ会議担当者を決め、馴染みの関係作りを行った。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>新包括の周知で訪問がまだできていない所があり続けていく必要がある。</p>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の予防・対応として市、CSW、ケアマネジャーなど関係機関と連携し、高齢者虐待の対応を行った。</li> <li>・成年後見制度の活用のため、ケアマネジャー対象の研修を開催し、成年後見制度の活用をPR。</li> <li>・消費者被害の防止のために、セーフティネット会議で周知や、郵便局・商店などを訪問。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>ケアマネジャーと連携や情報交換しやすい関係づくりに努めた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>成年後見制度についての住民への周知ができなかった。</p>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的・継続的ケアマネジメントの環境整備としてセーフティネット会議等各種会議に参加し、情報交換を実施。</li> <li>・国難事例への対応として、相談のあったケアマネジャーの後方支援を行った。</li> <li>・ケアマネジャーへのサポートとして、ケアマネジャー対象の研修会で、日々の業務での情報交換を行ったことにより、ケアマネジャーから相談を受ける機会が増えた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>ケアマネジャー対象の研修で、24名の参加があり、意見交換が行えた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>ケアマネジャー対象の研修が一度しかできず、今後は要望を聞き研修会や交流会を開催。</p>
		<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型地域ケア会議を6回開催、会議内でまとめを実施し課題を抽出。</li> <li>・事例提供者の援助内容を多職種で尊重しながら会議を進行。</li> <li>・西圏域包括で連携し地域課題の発見、情報交換を行った。</li> </ul>
ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン・シルバー人材イベント・健康講座などの地域活動に出向き、疾病予防・介護予防・介護保険・認知症への理解などの啓発を行った。</li> <li>・コミデイ・訪問A・通所Cを相談者・ケアマネジャーに周知を行った。</li> <li>・フォーマル・インフォーマルな社会資源を調べながら、自立支援ケアマネジメントを行った。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>ケアマネジャーに周知し、コミデイや訪問Aを取り入れたプランを相談者に提供できた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>はつらつパスポートの配布・活用が少なかった。</p>
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規オープンのため、相談援助体制の確立に努めた。</li> <li>・サロンに参加している地域住民や関係機関（医療機関・薬局・商店など）に包括の周知を行った。</li> <li>・虐待や困難事例の対応で、包括職員間で情報共有、関係機関との連携を図った。</li> <li>・地域活動（セーフティ会議など）に出向き、介護予防などの説明を行った。</li> <li>・総合事業・介護予防事業を活用し、自立支援ケアマネジメントを実施。</li> <li>・西圏域で連携し地域課題発見、西圏域包括同士の会議で情報交換を行った。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	春日・郡・畑田
運営主体	社会福祉法人 恩賜財団済生会支部大阪府済生会
センター名	春日・郡・畑田地域包括支援センター

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3職種で連携し相談対応する。</li> <li>・3職種のスキルアップを図る。</li> <li>・地域におけるネットワーク構築として、地域住民や関係機関に周知・関係構築を図る。</li> <li>・実態把握のために、アウトリーチを積極的に行い、関係機関と連携後のフォローアップを実施し把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修に積極的に参加する。</li> <li>・随時朝のミーティングで、援助事例を検討を実施。</li> <li>・サロン、セーフティネット会議の出席や、地域の商店等に訪問する。</li> <li>・対応後に相談者や援助機関にモニタリングを実施し、経過を把握する。</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待の予防・対応のために、地域のネットワークを活用し、高齢者虐待の防止・早期発見に努める。</li> <li>・複合的課題が多いため、関係機関との連携強化を図る。</li> <li>・成年後見人制度活用のために啓発。</li> <li>・消費者被害防止に努め、被害事例発生時には速やかに関係機関に連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括職員間で情報共有し、専門職の特性を活かした支援を行う。</li> <li>・包括職員間で情報共有し、関係機関との情報を密にして対応する。</li> <li>・地域住民の集まる場所で啓発活動を行う。</li> </ul>
包括的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティネット会議や地域住民活動へは、積極的に参加し情報交換・連携を深める。</li> <li>・ケアマネジャーが抱える困難事例には、積極的に同行訪問を行い後方支援を実施する。</li> <li>・ケアマネジャー対象の研修・交流会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン、セーフティネット会議等に出席し、情報収集・啓発を行う。</li> <li>・ケアマネジャーと同行、その後のフォローアップも行う。</li> <li>・ケアマネジャーのニーズに対する研修会を実施。</li> </ul>
	<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型地域ケア会議を開催、会議後にまとめを実施し課題を抽出する。</li> <li>・複合的課題の個別事例で地域ケア会議を開催、その後モニタリングを実施し経過を把握する。</li> <li>・事例提供者の援助内容を多職種で尊重しながら会議を進行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議を6回行う。</li> <li>・そのうち西圏域で1回会議を行う。</li> <li>・複合的課題の会議を実施する。</li> <li>・西圏域で連携し、地域課題の発見、地域づくり、資源開発を行う。</li> </ul>
ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動に積極的に向き、介護予防・認知症への理解・家族介護支援などの啓発を行う。</li> <li>・はつらつパスポート等のツールを活用する。</li> <li>・フォーマル・インフォーマルな社会資源を活用し、自立支援ケアマネジメントを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン、いきいき交流広場、認知症カフェ、老人クラブなどに向き。</li> <li>・はつらつパスポートを配布し活用する。</li> <li>・地域の社会資源の情報収集。</li> <li>・西圏域で連携し介護予防活動を行う。</li> </ul>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助体制を確立する。</li> <li>・地域住民や関係機関に周知・関係構築を図る。</li> <li>・虐待や困難事例の対応で、職員間で情報共有し、専門職の特性を活かした支援を行う。</li> <li>・地域活動に積極的に向き、介護予防・認知症の理解・家族介護支援などの啓発を行う。</li> <li>・フォーマル・インフォーマルな社会資源を活用し、自立支援ケアマネジメントを実施。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	沢池・西、春日丘・穂積
運営主体	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団
センター名	茨木市地域包括支援センター 春日丘荘

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合相談について 3職種で、情報共有、課題整理、支援方策を具体的に決定してから対応した。</li> <li>・問題の早期発見・早期対応のため、サロンや集いの場で相談を受け付けた。</li> <li>・相談経路や割合は、昨年度とほぼ同じ。</li> <li>・総合相談の実人数は、圏域高齢者人口の6%以上。実件数は24%。そのうち来所相談は例年通りの5%弱である。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各小学校区ごとに地域担当を決め「顔の見える関係づくり」ができています。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂の多い地域もあり、本人の来所相談が少ない。対象者把握のためサロンや訪問などで相談を聞いていく必要がある。</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援困難や総合相談継続ケースに対し、全職員が把握するため、月1回振り返り会議を行った。</li> <li>・大阪府下で北摂地域の詐欺被害が多いため消費者被害防止についての講話を各小学校区ごとに開催。</li> <li>・認知症に対する講話を各小学校区ごとに開催。</li> <li>・包括周知、ネットワーク構築のため、郵便局、銀行警察、消費生活センター、コンビニエンスストア、各商店などに60件/年 訪問した。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談全体の経路は、民生委員、福祉委員郵便局、銀行など関連機関からの連絡が40%程度で連携できている。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者被害に対する個別の注意喚起も必要。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初からの地域課題である、坂の多い地域ではかるがも号（買い物支援）移動スーパーを提案。</li> <li>・世代と地域をつなげるために認定こども園、多世代交流センターなど多世代に向けて、包括周知を行った。</li> <li>・認知症の延べ相談が昨年度とほぼ同じで多く、より充実したネットワークづくりが必要。</li> <li>・協働体制づくり、資質向上のため介護支援専門員・CSWとの交流会・勉強会を2回行った。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員、福祉委員、近隣の方、関連機関と顔なじみの関係ができ信頼できる相談窓口として連絡体制はとれている。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人からの早い段階からの相談を聞く必要がある。</li> </ul>
ケアマネジメント業務	<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型地域ケア会議を6回行った。又、西圏域の包括と情報共有した。</li> <li>・専門職からの助言が、個別の支援や今後の自立支援に資するケアマネジメントに活かされた。</li> <li>・地域ケア会議から出た課題を生活支援体制への取り組みに提案している。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・29年、30年、31年度に出た課題と付せて地域課題を各事業所にも伝えて近隣事業所が買い物支援サービスを開始した。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の解決にセラピストと連携する必要がある。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動をしていないサロンに運動啓発を行い体力測定を行った。</li> <li>・生活支援コーディネーターと協働し健康講座、ニュースポーツ実施、包括周知を行った。</li> <li>・各サロンで運動に対するアンケートを行い、運動頻度など意識調査を行った。</li> <li>・外出機会の提供による介護予防を目的に、かるがも号や多様なサービスを積極的に案内した。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かるがも号と連携、他社会資源についても地域住民へ周知、参加への支援を行った。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動の場などの社会資源の提案や発掘に至っていない。</li> <li>・利用サービスのモニタリングが必要。</li> </ul>
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・29年、30年、31年度で地域ケア会議等から出た課題で、買い物や受診等の外出の困難さが生じているため、かるがも号、移動スーパーへの誘致活動を行った。</li> <li>・地域ケア会議から地域の生活支援体制への取り組みへ提案、連携している。</li> <li>・運動への意識調査に対するアンケートを行い運動に対する意識が高いと分かったが、地区をまたいで運動の場に行くことが多く「集いの場、運動の場」づくりが必要。</li> <li>・地域づくりを担っている方々の高齢化が進んでいる。新たな担い手づくりに訪問型サービスA養成研修、シルバー人材サービス、シニアいきいき活動ポイント事業を積極的に案内した。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	沢池・西、春日丘・穂積
運営主体	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団
センター名	茨木市地域包括支援センター 春日丘荘

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握、対象者把握、問題の早期発見・介入のために集いの場にて早い段階から相談を受ける。</li> <li>・実態把握により個別ニーズ、地域ニーズを把握する。</li> <li>・複合的な課題の世帯への継続的支援と支援の強化を積極的に行う。</li> <li>・認知症の早期発見、早期に関連機関へつなげる。</li> <li>・相談に対する職員一人一人のスキルの底上げ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各サロンでの個別相談を行い、サロンでの個別相談件数を10%増やす。</li> <li>・新規の対象者及び、継続ケースについて3職種で情報共有。</li> <li>・認知症に関する延べ相談件数を5%増やす。</li> <li>・自己チェックシートの活用と研修受講</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待に対し「事実確認チェックシート」を活用し、センターが組織として、虐待について把握し市や関連機関と共に対応する。</li> <li>・高齢者虐待防止を啓発する。</li> <li>・地域に向けて権利擁護の啓発。</li> <li>・消費者被害の未然防止に努め、警察や消費生活センターと連携し、民生、ケアマネジャー、サロンや個別への被害防止の注意喚起を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン等で住民向けに虐待の未然防止・早期相談・発見のための研修を行う。</li> <li>・個別に消費者被害の注意喚起を行う。</li> <li>・地域向けに消費者被害防止、認知症に関する勉強会を行う。</li> <li>・認知症高齢者徘徊模擬訓練を年1回行う。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム構築に向けて、高齢、障がい、CSW等関連機関と協働した切れ目のない相談支援体制作りを行う。取り組みのため多様なサービス、一般介護予防も含めた総合事業の提案。</li> <li>・単身高齢者の食事会に出向き包括周知を継続する。</li> <li>・利用者が切れ目なく生活できるよう相談機関同士連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括独自の案内カードを作成し包括周知、ネットワーク構築の強化に活用する。</li> <li>・関連機関との連携を計画的、継続的に行う。</li> <li>・広報活動を通じて社会資源を地域へ案内。</li> <li>・居宅介護支援事業所・CSWとの交流会を年2回行う。</li> </ul>
	<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型地域ケア会議を充実させ、自立支援、重症化防止に努める。</li> <li>・関連機関や社会資源の見える化を行い、会議で共有する。</li> <li>・会議では地域資源マップを利用し専門職に案内。</li> <li>・地域ケア会議から出た課題を生活支援体制への取り組みに提案する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、困難事例に対する地域ケア会議を6回行う。</li> <li>・既存のシステムから社会資源マップ作りをし、資源の可視化を行う。</li> <li>・西圏域で地域ケア会議の報告共有を行う。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援の視点に立ち、多様なサービスを介護予防ケアマネジメントに取り入れる。</li> <li>・短期集中予防サービスを効果的に支援する。</li> <li>・専門職による単発訪問指導の推進。</li> <li>・買い物支援など新たな社会資源に対し、個別なモニタリングが必要。</li> <li>・はつらつパスポートの活用促進。</li> <li>・社会参加やセルフケアを継続するための支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なサービスを活用した目標指向型ケアプランの作成を推進する。</li> <li>・専門職が各小学校区偏りなく訪問。</li> <li>・かるがも号の利用者全員にモニタリングを行う。</li> <li>・はつらつパスポートの周知と活用状況のモニタリング。</li> </ul>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の満足度を知るため、地域ケア会議から出た課題への取り組みの効果を検証する。</li> <li>・地域包括ケアのネットワーク構築の強化</li> <li>・介護予防の取り組み：早期発見、早期介入に向けてサロン等で個別相談を受け付ける。</li> <li>・生活支援体制の充実と整備、かるがも号、いんどりカフェ、認知症カフェ、各サロンと連携する。</li> <li>・生活支援コーディネーターと協働し支援体制を強化。</li> <li>・認知症ネットワーク構築を行う。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	茨木・中条
運営主体	社会福祉法人 茨木市社会福祉協議会
センター名	茨木市社会福祉協議会地域包括支援センター

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のニーズに対応出来る地域情報をCSWや関係者に情報提供・連携し、地域の要支援高齢者を掘り起こしながら必要な支援に迅速につないだ。</li> <li>・三師会等へ訪問しチラシ、ポスター啓発をすることで、支援困難な高齢者やその家族へのアプローチに協力が得られネットワークがより強化出来た。</li> <li>・包括内でも必要事項や情報の共有等相談支援に必要なことについては毎朝のミーティングや緊急時の会議等で情報共有した。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>市の中心に位置し、多種多様な相談対応が多いが、地域関係機関とも日常的に協力できる関係づくりが出来ており連携体制は整っている。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>潜在化している支援ニーズの高い人達の掘り起こしができていないので、商業施設等への啓発も必要である。</p>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司法書士を招き「成年後見制度」にかかるケースの対応方法について共有をすることで、介護支援専門員のスキルアップに繋げることが出来た。</li> <li>・困難ケースに対し、行政や関係機関と情報共有し、ネットワークを強化しながら対応出来た。</li> <li>・消費生活センターや警察からの被害事例を集め、事業所や地域住民への被害防止のため啓発活動を実施出来た。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>権利擁護を必要とする支援ケースに対し、包括三職種が連携し、緊急性に応じた対応が出来る。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>消費生活センターとは必要時にしか連携できていない。定期的に意見交換の機会を持つ必要がある。</p>
包括的ケア継続的マネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援専門員の相談窓口として、随時相談対応、情報の発信等を行い、支援環境の整備に努めた。</li> <li>・居宅介護支援事業所の主任介護支援専門委員と連携し、自立支援に寄与できる研修内容を検討し、ケアマネジメントの向上に努めた。</li> <li>・上記により介護支援専門員自身の支援傾向を自己覚知し、業務のあり方を再認識してもらい今後の業務改善につなげる交流会を実施した。</li> <li>・支援困難事例については三職種で連携し、事業所の介護支援専門員が抱えるケースの支援に努めた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>事業所、関係機関との連携や協力はできており、できる限りでのワンストップ支援もできていた。自立支援に根付いた介護支援専門員の質の向上に寄与できた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>支援困難ケースと気付いていない介護支援専門員が散見する状況。マネジメント力の向上、地域包括支援センターの後方支援の周知を積極的に行う必要がある。</p>
	<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース選定は地域の居宅介護支援専門員に協力を仰ぎ、自立支援と地域課題の掘り起こしに努めた。</li> <li>・ケースに応じて支援者や専門職を選定し、多様な関係機関に参加してもらった。発言や助言などが自由闊達に行われ、自立支援における課題や地域課題、他市の取り組みなど意見交換ができた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>医療・介護の専門職が各々の立場からより専門的な意見を引き出せる会議となっていた。</p>
介護予防マネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援とは何なのかを改めて考えた。身体的部分だけではなく精神的にも自立支援が必要であり自身の主体性や意思意向等も視野に入れながら対象者の全体像を把握し必要な支援に繋がるよう努めた。</li> <li>・はつらつパスポート（連携編）は配付と説明にとどまり、継続して活用するところまで行かなかった。また、はつらつパスポート（元気編）は地域に出向いて関わりのある高齢者に配布し健康を維持する上で活用できた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>自立支援について、地域ケア会議を通して専門職からのアドバイスを多岐にわたり活かせたのではと思う。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>はつらつパスポート（連携編）は浸透しておらず、継続した活用がされていない。</p>
地域対する課題取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独居高齢者や高齢者世帯が増加傾向しているが、自治会や老人会に未加入の高齢者も増加しており、地域との繋がりが希薄なために状況把握が出来ないことも多い。住み替えなどの相談も多く、居宅支援法人の紹介、保証人不要の住宅情報等を周知・啓発した。</li> <li>・便利な地域のため商店などが密集しており交通量も多く、高齢者の自転車事故も多いため、警察とも連携して交通安全教室推奨のヘルメットのチラシを配布した。</li> <li>・認知症の方への理解を深めるため、地域住民と一緒に認知症高齢者徘徊訓練を実施した。</li> <li>・高齢者を含む家族の支援、地域に埋もれている8050問題、ゴミ屋敷も多くCSWや民生委員や医療機関とも積極的に連携して対応した。</li> </ul>	



令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	茨木・中条
運営主体	社会福祉法人 茨木市社会福祉協議会
センター名	茨木市社会福祉協議会地域包括支援センター

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括支援センターを周知するため、地域の病院、歯科、薬局などにも周知・啓発に努める。</li> <li>2. 包括的な支援がより強化できるように郵便局、銀行、コンビニ等日常生活に密接した機関とのネットワークより強化していく。</li> <li>3. 毎月定例の老人クラブや地域活動に積極的に参加してエリアごとの課題を整理する。</li> <li>4. 3職種の見点でのケース検討を積み重ね迅速な問題解決、チームアプローチの強化、相談援助技術の向上に努める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エリア内の3医師会への訪問を継続し、連携した支援・対応に繋げる。</li> <li>2. 3. 地域活動を増やし、より身近な情報提供・つながりができるように関係機関とのネットワークを強化構築する。</li> <li>4. 複雑化する相談内容、また高齢者を含む世帯の他家族の多様な問題をワンストップ対応できるように日ごろの連携と解決できる策等の研修などに参加してスキル向上に努める。</li> </ol>
権利擁護業務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成年後見制度の活用促進を目的とした研修会の実施や事業啓発。</li> <li>2. 消費者被害の防止を目的とした各種関係機関への情報提供と啓発。</li> <li>3. 高齢者虐待防止や消費者被害防止を目的とした地域住民への啓発。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成年後見制度に関する研修会の実施。(年1回)</li> <li>2. 消費者被害に関する情報提供(随時連絡便等利用)</li> <li>3. 消費生活センターとの情報共有(年3回)</li> <li>4. 権利擁護に関する情報等を地域で啓発。(随時：地域ケア会議・民児協定例会・高齢者サロン等)</li> </ol>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護支援専門員の相談窓口ということの周知徹底と環境整備より積極的に在宅支援事業所へ訪問し、支援機関としてアピールする。</li> <li>2. 介護支援専門員が抱える、また、気が付いていない支援困難事例等の掘り起こし。</li> <li>3. 介護支援専門員の自立支援に資するケアマネジメントの質の向上、底上げを図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 随時の相談受付、周知の啓発、介護支援専門員向けチラシ作成と配布、随時の事業所訪問。</li> <li>2. 上記相談、啓発、訪問時の聞き取り等。</li> <li>3-①居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員との意見交換(訪問、電話、交換会)。</li> <li>3-②介護支援専門員交流会の開催(年2回)</li> </ol>
	<p>【地域ケア会議】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 次年度の地域ケア会議の重点課題に即した会議の開催が求められる。自立支援型ケアマネジメントは介護保険制度においての根幹であることから、それらの視点は外さない。</li> <li>2. 多様な関係機関の参加、新たな参加者も検討し、地域課題解決の実践に繋がるようにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1-①②年6回の開催し、参加者全員の活発な発言、情報の引き出し。</li> <li>1-③地域ケア会議での助言等から自立支援型ケアマネジメントの計画と実践、それらの指導、助言など。</li> <li>2. 地域課題の分析と実践への道筋づくり、市への提言。</li> </ol>
介護予防ケアマネジメント業務	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個々に応じた自立支援を関係機関とともに考え、対象者が在宅生活を継続出来るよう努める。</li> <li>2. 医療と介護、他関係機関との連携を一層密にし、必要に応じ迅速に対応できる体制を整える。</li> <li>3. 連携ツール及び又対象者の全体像の把握に繋がる「はつらつパスポート」の活用を強化する。(地域の会議や活動場所での啓発、配付や市内の介護支援専門員への使用継続の促しにも努める)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者の個別対応において、全体像の把握と必要な社会資源を結び付け在宅生活を継続していただく。</li> <li>2. 医療をはじめとする関係機関に出向いたり話し合える場づくりをしたり、連携を強化する。</li> <li>3. はつらつパスポート(連携編)はワーキングチームと協議しながら、活用の周知に努める。</li> </ol>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次期総合計画案の地区保健福祉センターを見据えた関係機関との連携強化、専門職としての相談援助技術の向上、インフォーマル資源の整理・収集に努める。</li> <li>・自立支援に基づいたアセスメントの見点が基本となるよう居宅介護支援事業所の介護支援専門員との意見交換会やケース会議の場を増やして、地域に必要な取り組み、地域課題を見出し地域に不足している資源の開発に繋げる。</li> <li>・認知症課題への取り組みを地域住民等と一緒に実施する(年2回)。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	大池・中津小学校区
運営主体	有限会社 グリーンリーフ
センター名	大池・中津地域包括支援センター

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新包括設置の周知活動を行い、地域住民、医療機関、介護事業所、民生委員等、各関係機関とのネットワークの構築に努めた。</li> <li>・相談内容を限定せず、ワンストップ対応を行った。</li> <li>・地域の実態や社会資源を把握するために積極的に地域活動に参加したり、情報収集を行った。</li> <li>・毎朝のミーティングや必要時のケース会議を行い、情報を共有し、チーム力の向上につながった。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>センターの立地がよいことや時間外や土曜、祝日にも開所したことで、地域住民のニーズに応えることができた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>相談対応する職員の能力の向上、民間企業への周知活動、65歳以下の住民への周知活動が必要。</p>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主に民生委員の協力のもと虐待の早期発見を行い、関係機関と連携したことで、相談の入ったケースに関してはすべて終結もしくは再発を防止できた。</li> <li>・必要なケースに対して成年後見制度の申し立てや助言、周知ができたが、積極的な啓発活動までは行えなかった。</li> <li>・警察や消費生活センターから把握した情報や住民から報告を受けた被害状況を地域で情報共有した。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>民生委員等の地域住民とのネットワークの基盤があり、協力を得られた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8050問題を持つ家庭や支援につなげていない独居高齢者へのアプローチ</li> <li>・成年後見制度や消費者被害等、地域全体に周知するツールが必要。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託ケースにおける担当者会議にはすべて参加し、利用者の状況の把握、担当ケアマネジャーとの連携を図った。</li> <li>・交流会を開催することで日頃のケアマネジャーの抱えている課題の把握に努めた。</li> <li>・各職員がそれぞれの経歴の中で築き上げてきたネットワークを利用し、多職種との連携、医療機関との連携が図れた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>ケアマネジャーから相談のあったケースについては必ず同行訪問し、対応について一緒に検討、対応することができた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>地域にある社会資源の把握が不十分。また、新たな住民の力を借りた活動を開始したい。</p>
		<p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型、複合型地域ケア会議を年8回開催企画することができた。（その内2回は開催中止）</li> <li>・自立支援型地域ケア会議の目的を知ってもらうためになるべく多くの傍聴席を設け、ケアマネジャーが学ぶ場として参加してもらうことができた。</li> <li>・それぞれの関係機関が抱えている課題を抽出し地域の課題として会議の議題にあげることができた。</li> </ul>
ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービスのみのプランが多く、インフォーマルサービスやセルフサービスの活用を促したがうまく結びつかなかった。</li> <li>・はつらつパスポートがあまり活用できなかった。</li> <li>・認知症カフェとの連携が図れなかった。</li> <li>・委託の予防プランについて依頼のあった担当者会議に、ほぼ全て出席することができた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <p>元気いっぱい教室の活用やコミデイの利用を促進できた。</p>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <p>介護保険外のインフォーマルサービスを活用していくために、より多くの社会資源の把握をしたい。社会資源地域マップの作成に取り組みたい。</p>
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新包括を地域住民に徐々に周知することができ、たくさんの相談を受けることができた。</li> <li>・地域住民のみではなく、ケアマネジャーや事業所が相談できる窓口を目指すことができた。</li> <li>・各関係機関とのネットワークを強化できた。</li> <li>・地域の中の生活の格差、見守りの強い地域、薄い地域の把握ができてきた。</li> <li>・行政では把握できない要援護者の早期発見のためのネットワークができてきた。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	大池・中津小学校区
運営主体	有限会社 グリーンリーフ
センター名	大池・中津地域包括支援センター

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のサロンや体操教室、老人会等の地域の活動に向き、出張相談窓口を行う。</li> <li>更なるワンストップ対応を行うために、障がいの支援機関、子育て支援機関等との連携を強化する。</li> <li>圏域内にある民間企業への周知活動を強化し連携を図る。</li> <li>三職種の専門性を高めるため積極的に研修等に参加し、職員の能力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回は各専門職が地域活動に赴き、相談を受ける機会を設ける。</li> <li>障害者の支援機関、子育ての支援機関に訪問し、顔の見える関係をつくる。</li> <li>郵便局、新聞・宅配業者等、要支援者の早期発見のために周知を行う。</li> <li>年間研修計画を立て、各職員の達成目標を定め年度末には評価を行う。</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>独居・高齢者世帯の個別訪問を行い要援護者の早期発見に努める。また、事業所や民生委員等とネットワークの強化を図る。</li> <li>成年後見制度の利用促進に向け、勉強会や研修会等での啓発活動を行う。</li> <li>消費者被害防止のため、訪問販売お断りシールや各関係機関からの情報を、住民・各事業所等に周知するツールを作る。(包括掲示板の活用等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問が必要な方の情報を民生委員より聞き取り、包括のチラシや名刺のポスティング、必要時には戸別訪問を行う。</li> <li>ケアマネジャーとの交流会で年1回は成年後見制度の研修を行う。</li> <li>消費者被害防止シールの配布や掲示板等による情報共有を検討する。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会資源マップの作成</li> <li>地域課題の解決に向けたインフォーマルサービスの拡充</li> <li>介護と医療の連携強化に向けた勉強会・研修会の開催</li> <li>受診につながらない認知症・精神疾患のある方へのアプローチ・連携のツールを作る。</li> </ul> <p>【地域ケア会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間計画を作成し、事前に各事業所や地域住民、圏域の医療関係に通知し、事例提供を依頼する。</li> <li>自立支援型で検討したケースについて会議後のモニタリングを全員で評価できる会議開催の仕組みをつくる。</li> <li>傍聴席を設け、多くの事業所に地域ケア会議の目的を知ってもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年かけて情報を収集し社会資源マップを作る。</li> <li>地域課題解決に必要な新たな社会資源を見出すため、地域ケア会議に民間企業の参加も検討する。</li> <li>入退院時の連携がうまく図れなケースについて課題を抽出、対応策を地域の事業所と検討する。</li> <li>自立支援型、複合課題型を各4回開催する。</li> <li>自立支援型の目的を理解してもらうための機会を設ける。</li> <li>複合的課題を抱えた事例の共通の課題を見出し、課題解決できるツールを作る。</li> <li>会議への参加者の幅を広げる。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流会を定例で開催し、ケアマネジャーが抱えている課題を把握し、ともに課題解決に向けた勉強会や情報を共有できる場を設ける。</li> <li>委託のケースの担当者会議には必ず出席し、ケアマネジャーとの情報共有及びプランの見直しについて意見交換を行う。また、ケアマネジャーが抱えている課題や不足している社会資源の把握に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケアマネジャーとの交流会を年4回開催する。</li> <li>ケアマネジャー等にも参加を依頼して、社会資源マップを作成することにより介護保険外サービスにも目を向けてもらい、自立支援に向けたプランの作成が行えるようにする。</li> </ul>
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の超高齢化社会に向け、地域で支えあえる仕組み(共助)を作るため、地域の人材や素質を把握し協力の依頼を行っていく。</li> <li>自助・共助・公助を強化し、地域の要援護者が安心して住める地域づくりを行う。</li> <li>更なる包括の周知・啓発活動、職員が地域に赴き顔の見える関係性を構築したい。</li> <li>地域住民の信頼を得るためにも、迅速で的確な相談対応を行えるよう、職員のスキルアップも常に念頭に置き、幅広い相談内容に対応できるよう能力の向上を目指す。</li> </ul>	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	玉櫛・水尾
運営主体	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団
センター名	玉櫛・水尾地域包括支援センター

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談を受けた際、包括内で情報共有し、支援方法について、検討・協議を行い、自立支援に向けた支援を行っている。</li> <li>相談件数は、1966件。日々増加傾向。そのうち、来所相談は全体の8%となっている。</li> <li>月1回サロンや街デイに出向くことで、身近に相談できる機会を設けた。</li> <li>広報誌を年4回配布し、旬の話題を提示できた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民が立ち寄りやすい場所にある。</li> <li>顔の見える関係性ができた。</li> <li>ワンチームとして動いている。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場所や職員の人数に限りがあり、突然の事象に対する対応方法や対応策を検討する必要性がある。</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>虐待・困難・権利擁護が必要な事例は、包括内で協議し、各専門職の特性を活かし、それぞれの機関と連携して、対応を行った。</li> <li>老人会で詐欺被害のDVDや講話を行ったり、消費者被害のチラシをサロンや街デイに掲示し、啓発活動を行った。</li> <li>高齢者虐待（疑いを含む）は7件。高齢者虐待は総合相談の5%、成年後見は2%を占めている。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括内での協議・検討をこまめに行い、同じ方向で対応している。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>包括として、権利擁護の関りについて、地域住民に周知する必要がある。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護支援専門員交流会を2回、居宅事業所への訪問を1回行った。</li> <li>エリア内の病院・薬局・地域活動へ積極的に参加し包括の啓発活動・広報誌の配布を行った。</li> <li>介護支援専門員からの相談に対して、同行訪問をしたり、書面でアドバイスを行った。</li> <li>エリア内の地図を事務所内に掲示し、休憩できる箇所を発掘・印をつけ、職員内で把握した。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携や協力体制を深めることができた。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ケースに対して、個別対応はできているが、そこから地域課題や社会資源発掘までには至っていない。</li> </ul>
		<p>【地域ケア会議】</p> <p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ケア会議の趣旨を説明し、理解を得て専門職の方々に出席いただくことができた。</li> <li>自立支援型地域ケア会議を6回、モニタリングを2回地域向け地域ケア会議を2回行った。</li> </ul> <p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々に、自立支援型地域ケア会議についての説明と介護保険事業所の紹介を行った。</li> <li>会議の参加者とネットワークを持つことができた。</li> </ul>
ケア予防業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>老人会での講話の際、必ずいばらき体操を行った。</li> <li>はつらつパスポートはサロンや新規相談時、配布し活用していただくよう働きかけた。</li> <li>コミデイ・訪問型サービスA・B・短期集中Cの利用を促進した。</li> <li>地域の集まりに参加して、地域住民との関係性を築くとともに、予防活動への周知、啓発が行えた。</li> </ul>	<p>【強み】（特に評価の高い点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員全員が自立支援について関心を持ち取り組んでいる。</li> </ul>
		<p>【弱み】（改善が求められる点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はつらつパスポートを地域住民に配布するが、既に持っている方が多い。身近に感じてもらえるよう活用方法を検討する。</li> </ul>
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合相談の詳細について、小学校別に数値化を図り、職員全員で分析を行い、地域課題の把握、理解できるよう取り組んでいる。</li> <li>アルコール摂取による体・生活への弊害について、地域全体でより正しい知識を得ることができるよう働きかけていく。</li> <li>病院未受診の方が多い。適切な受診先選考に対するアドバイスや提案を行った。</li> <li>アルコールへの依存傾向や認知症、独居高齢者等、キーパーソンとの連携が不可欠なケースなのに、なかなか連携が取れないケースが多い。その課題に対する対応策を検討している。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	玉櫛・水尾
運営主体	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団
センター名	玉櫛・水尾地域包括支援センター

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	①総合相談の実施 ・ワンストップ機能を発揮するため、関係機関との連携を強化する。 ・気軽に相談できる開かれた包括を目指す。 ②地域におけるネットワーク構築。 ・地域と顔の見える関係づくりを継続していく。 ③実態把握 ・総合相談の数値化を継続し、分析していく	・朝礼時、職員全員で相談内容を把握。それぞれの特性を活かし、支援する。 ・サロン等に1回/月出向き、相談しやすい関係性をつくる。 ・地域向けの広報誌を4回/年発行。病院や薬局、関係機関に配布する。 ・総合相談を小学校別に数値化し、分析、職員全員で把握する。
権利擁護業務	①高齢者虐待の防止・対応 ・地域住民・関係機関・市と連携し早期発見に努める ②困難事例への対応 ・関係機関との連携を強化する。 ③成年後見制度の活用促進 ・成年後見制度の必要な人に利用を促進する。 ④消費者被害の防止 ・地域向けの啓発活動を継続する。	・包括職員間で、情報共有を行い協議した上で、よりよい支援を行う。 ・地域住民や関係機関からの情報提供に対して迅速に対応する。 ・成年後見がスムーズに利用できるような関係機関と連携を行う。 ・消費者生活センターや警察と連携しタイムリーな情報提供・啓発を行う。
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	①包括的・継続的ケアマネジメントの環境整備 ・多職種で連携が図れる連携体制を構築する。 ・セーフティーネット会議や地域活動に参加し、情報交換・連携を図る。 ②介護支援専門員等へのサポート ・エリア内の介護支援専門員に対して、事業所訪問を行うことで、具体的な後方支援を実施していく。 ・研修を開催することで、スキルアップを行う。 【地域ケア会議】 ・自立支援に重点を置いた地域ケア会議を開催する。 ・モニタリング中心の地域ケア会議を開催し、いただいたアドバイスの結果を、参加者全員で共有し、さらなる発展に活かしていく。 ・地域ケア会議を行うことで、課題解決に繋がるネットワークや多職種連携の構築を図る。	・自立支援型地域ケア会議を積極的に行う。 ・小学校区毎に担当者を決め、窓口の一本化を図る。 ・主任介護支援専門員が中心となり、居宅事業所を訪問する。 ・包括や関係機関が、スキルアップできる研修や交流会を年2回開催する。 ・自立支援型地域ケア会議を年6回開催 ・モニタリング中心の地域ケア会議を年2回開催し、フィードバックする。 ・事例提供をケアマネジャーに依頼し、専門職の多角的な意見や方法を共に学んでいく。 ・自分の価値観だけではなく、色々な意見を聞き、「提案力」を身につける。
介護予防ケアマネジメント業務	・自立支援の視点を取り入れ、多彩なケアマネジメントを推進していく。 ・介護予防推進のため、いばらき体操を活用する。 ・法人内の地域包括間で、意見交換を行い、他市での取組みや情報を共有し、介護予防ケアマネジメントの充実を図る。 ・はつらつパスポートを配布し、活用推進する。	・ニーズに応じて、「活動」「参加」の目標をケアプランに位置付ける。 ・コミデイ、訪問型A・B、短期集中Cの利用を促進する。 ・地域活動（サロン・老人クラブ）に積極的に出向き、介護予防やはつらつパスポートの周知・啓発を行う。
取組方針	・75歳以上の相談件数が増加している。「フレイル」にならないための介護予防「参加」「活動」「栄養」に焦点を当てた話題を広報誌や講話に取り入れ、啓発していく。 ・アルコール依存症への知識を深めるため、専門家を呼んで、まず包括内で研修を行う。 ・エリア内で未受診の方が多いため、今までアプローチを行った医療機関のリストアップを行い、包括内で情報共有し、今後の支援に活かしていく。 ・独居高齢者等の「キーパーソン問題」に対して、司法書士等専門職を招き、研修会を開く。 ・認知症や介護予防のため、エリア内の立ち寄れる場所をリストアップし見える化する。	

令和元年度 茨木市地域包括支援センター事業報告書

担当小学校区	玉島・葦原、天王・東奈良
運営主体	社会福祉法人 茨木厚生会
センター名	茨木市地域包括支援センター葦原

項目	報告	定性的評価
総合相談支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当エリアが2小学校区少なくなり、相談件数（新規）は600件だが、各小学校区は昨年度比で1.5～2倍増となっており相談窓口としての浸透率は高い。</li> <li>・ワンストップ機能は十分に発揮され、心身状況や生活環境の把握をした上で必要な関係機関に繋いでいる。</li> <li>・CSWとの連携がより密になり、同行訪問や情報共有も早くなっている。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速丁寧な対応を心がけ、高齢者に限らず、相談のワンストップの徹底と専門職や関係機関との連携は早い。</li> </ul>
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入職者のスキルアップが課題</li> </ul>
権利擁護業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援員を対象に虐待防止啓発を行った。</li> <li>・居宅事業所を訪問聞き取りし、意見交換会を開催した。（介護支援専門員・相談支援課・人権男女共生課参加）</li> <li>・虐待になるリスクを抱えたケースの相談もあり、啓発活動は効果があったと判断できる。</li> <li>・虐待相談（新規）延11件（疑いを含む）</li> <li>・成年後見人制度相談（新規）延7件</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談者、本人双方に適切な支援を提案出来る点とその為の関係機関の連携が図れている。</li> </ul>
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域サロン等で勉強会を開催しているが地域への周知は十分と言えない。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援事業所へ訪問し、情報交換を行った。</li> <li>・要介護ケースの相談やサービス提供事業所からも困難対応の相談を受けている。</li> <li>・圏域内金融機関主催の地域向けセミナーに参加し認知症の啓発を行った。</li> <li>・スムーズな医介連携のために、居宅介護支援員からMSWや医師、訪問看護についてアンケートを実施。</li> <li>・広報誌を発行（年4回）し、医療情報や地域情報を提供している。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関と協働体制は出来ており、迅速な連携が出来る。</li> <li>・後方支援についても周知されている。</li> </ul>
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的・継続的ケアマネジメントを実践する環境（医療機関・サービス事業所・介護支援専門員・居場所等）をつくり相互に顔の見える関係をつくる必要がある。</li> </ul>
		<b>【地域ケア会議】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援型4回、複合課題型1回、モニタリング2回、計7回実施</li> <li>・自立支援型では傍聴席を設け、参加者だけでなく意見を聞く機会となり、知識やスキルの向上につながった。</li> <li>・複合課題型では、市民生活相談課や公園緑地課ともつながりができた。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定介護予防支援や介護予防ケアマネジメントに取り組む姿勢を本人や家族の意思決定支援を基本にし、相談から申請、サービス調整まで速やかに対応している。</li> <li>・自立支援とは何かを個別に検討し、サービスCへの相談回数も増え、市の理学療法士と訪問することも増えている。</li> </ul>	<b>【強み】</b> （特に評価の高い点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人家族の意向を確認しながら、速やかな対応が出来ている。</li> </ul>
		<b>【弱み】</b> （改善が求められる点） <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議で得た意見を共有し、介護予防ケアマネジメントに活用する仕掛けが必要。</li> </ul>
地域課題に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪北部地震の影響でスーパーが休業し、買い物弱者が発生した。CSWや生活支援コーディネーターと協働で買い物地区作成配布やスーパー再開まで送迎サービスを展開した。再開後、ドラッグストアから配達サービス開始の情報があつた。</li> <li>・包括の取り組みを広報誌で紹介することで、地域（自治会やいきいき広場等）から体力測定や介護保険・成年後見人制度、認知症の講話依頼が増え、少人数単位での知識の普及ができた。</li> <li>・野々宮、目垣、沢良宜西4丁目地区には近距離に気軽に集まれる場所がないことで社協やCSWと情報共有し、今後の取り組みの検討を始めた。</li> </ul>	

令和2年度 茨木市地域包括支援センター事業計画書

担当小学校区	玉島・葦原、天王・東奈良
運営主体	社会福祉法人 茨木厚生会
センター名	茨木市地域包括支援センター葦原

項目	重点計画	指標・目標値
総合相談支援業務	1、相談窓口として機能強化 ・多様な相談対応ができるスキルの習得や3職種の協働と緊急時対応可能な情報共有体制の強化 ・専門的視点で複合的な相談に対応し、専門機関と継続的に連携する。 2、新入職者の育成と現職員のスキルアップ 3、地域の実態とニーズ把握を行い、アウトリーチにつなげる。 4、相談窓口として更なる認知度のアップを図る。	・毎日、朝礼を行い職員間の情報共有を行う。困難ケースは月1回情報を共有する。 ・圏域で開催している連携会議（包括・CSW・障害）3か月に1回開催の継続 ・新入職者は虐待対応初任者研修・認知症キャラバンメイト養成講座の受講必須 ・現職員は積極的に研修に参加する。 ・担当を決め月1回地域へ出向き実情の把握と課題抽出を行い、共有する。
権利擁護業務	1、高齢者虐待防止と対応 ・関係機関、地域住民、市と連携し早期発見に努める。 2、消費者被害の防止 ・最新情報はタイムリーに地域や介護支援専門員へ情報提供する。 3、成年後見人制度の活用促進 4、認知症について啓発する。	・居宅介護支援専門員の虐待相談窓口として定着を図る。 ・消費生活センターや金融機関を訪問し、包括の周知と情報交換を行う。また、地域（サロン・交流広場・街デイ・セーフティネット会議等）で情報提供を行う。 ・権利擁護の啓発を常時発信する。
包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	1、生活圏内の社会資源を再確認。包括的継続的ケアマネジメントの実践可能な環境を作る。 2、居宅介護支援事業所訪問の継続。後方支援機関としての認知度をアップする。 3、医介連携のためにそれぞれの視点（訪問看護・MSW・包括・居宅介護支援専門員等）から相互理解を深める。 4、関係機関（フォーマル・インフォーマルを含む）の情報提供をする。 【地域ケア会議】 1、包括的・継続的ケアマネジメント実践のツールとし、多職種連携の場とする。 2、介護支援専門員のスキルアップを図る。 3、介護支援専門員からの事例提供を求める。提供しやすい仕掛けづくりを行う。 4、複合課題型会議は随時開催とする。 5、専門職からの助言から新たな発想や提案を生み出す。	・職員が担当地域・場所に出向き社会資源（フォーマル・インフォーマル）を再確認すると共に連携の強化を図り、見える化する。 ・研修会や意見交換を開催し、介護支援専門員同士のネットワーク作りを支援する。 ・医介連携の意見交換会の開催。 ・広報誌を発行（年4回） ・自立支援型会議を年6回の開催する。 ・傍聴者や事例提供者が報告者となり、会議で得た意見を共有する場をつくり、介護支援専門員を対象に自立支援型会議の理解を深める勉強会を開催。 ・複合課題型やモニタリング型は随時開催とするため、関係機関と連携を密にする。
介護ケアマネジメント業務	1、自立支援に向けた対応ができるよう実情を把握する。 2、介護保険制度だけではなく、他の福祉サービスや生活サービスを活用した介護予防を個別に検討する。 3、地域のアセスメントを行い、関係機関と連携し、現状の改善を目指す。	・地域別社会資源を再確認し、自立支援に活用する。 ・医師やMSWと連携を強化し、在宅生活に迅速に対応する。 ・新たな居場所や相談場所をつくる。 ・はつらつパスポートの活用を検討。
取組方針	・包括の4業務が互いに関連していることを念頭に置き、改めて地域アセスメントを行う。 ・特に、野々宮、目垣、沢良宜西4丁目は住民から相談場所や気軽に集まれる場所がないと挙がっている地域である。CSWや行政、社協と連携検討したい。 ・地域ケア会議を関係機関の連携や自立支援のツールとし、ネットワークの構築や介護予防ケアマネジメントに役立てる。 ・包括的継続的ケアマネジメント実践の環境づくりが、相互に顔の見える関係強化の要となる。	